

失敗か
成功か？
運命の選択

サイ
バイ
バル

3
分
間



豪華客船の死角

感染↓なぜ？

豪華客船キングホエール号はキラキラ輝く青い海の上に、静かに停泊していた。（本当なら今ごろ、たくさんのお客さんに乗せてクルーズに出ているはずなのに。）キングホエール号の責任者であるミナモト氏は、苦虫をかみつぶしたような表情で、保健所の人たちが船内を歩き回るのをながめていた。

ことの起こりは1週間ほど前。

キングホエール号を借りきって行われたパーティーに参加中、気分が悪くなつてトイレで吐いてしまったお客さんがいたのだ。そのお客さん——S氏は客室のトイレから出たあと、友だちにつきそわれて病院へ向かった。そして、S氏がノロウイ

ルスに感染していたとわかると、キングホエール号のスタッフたちはほかの客たちを船から降ろし、すぐに船内の消毒を行ったのである。

幸いにも今のところ、お客さんの中からは感染者は出ていない。だが、キングホエール号のスタッフの中から3人も感染者が出てしまったのだ。そこで、保健所の人がそうじや消毒のやり方が適切だったか確認するためにやってきたわけである。

「トイレを筆頭に、食べ物をあつかうキッチンに食堂、客室。らせん階段の手すりも、大理石の床も時間をかけてふいた。最後に、大広間のふかふかのじゅうたんに消毒薬を吹きつけた……と。これで合っていますね？」

保健所の人が、メモを見ながらミナモト氏に確認する。

「はい、そうです。お話ししたように消毒は完璧にやりましたつもりなので、なぜスタッフから感染者が出てしまったのか、わたしは納得がいけないんです。」

すると、保健所の人のは視線を落として言ったのだ。

「お聞きしたかぎり、あなた方はとてもよくやりました。ほとんど完璧だったと思います。一点をのぞけば……。」

保健所の人の言葉には、船内で感染が広がったことのヒントが隠されている。それはどんなことだったのだろうか。

解説

ノロウイルス

ポイントとは、船内の広い範囲にしかれていたじゆうたんだ。スタッフは船内をていねいに消毒したが、トイレをそうじしたとき、くつの裏にノロウイルスがついてしまったことには考えがおよばなかった。ウイルスはじゆうたんにくつき、乾燥し、人が歩くたびに空気中にまき上げられた。スタッフはこうして空気感染してしまったのである。このウイルスは感染力がとても強いので、感染者の使ったトイレをそうじするときは、ウイルスをばらまかないよう細心の注意が必要だ。

ノロウイルスに感染、発症すると、吐き気や腹痛など食中毒の症状を引き起こす。ノロウイルスに汚染された二枚貝（かきなど）が原因になることが多いが、十分に火を通して食べれば危険はない。感染者が十分に手を洗わずに調理をしたことで食品が汚染され、そこから感染が広がるケースもある。

街角のネズミ

危険↓なぜ？

クレープを食べながら立ち話をしていると、あたしたちの前をネズミが横切った。

「今の、ネズミじゃない？」

モモカはクレープの包み紙を丸めてゴミ箱につっこむと、ネズミが通りすぎていったほうに足を進める。あたしはモモカの肩をつかんだ。

「やめなよ、気持ち悪い。」

「えー？ ネズミなんてめずらしいじゃん。写真撮つところよ。」

モモカはスマホを取り出すと、カメラを起動する。

「モモカは、ベストを知らないの？」

キョトンとしてるモモカに、あたしはかんたんに説明した。

「ベストっていうのは歴史上、何度も流行してたくさんの死者を出している病気だよ。体じゅうにアザみたいのができて、はだが黒くなるから『黒死病』って呼ばれるんだって。こわいっしょ!? ベストの菌をまき散らすのはネズミなんだよ。」

「ああ、それ聞いたことある。外国の病気じゃないの？」

「日本でもはやったことがあるって。」

「すごい昔の病気でしょ。」

「でも、撲滅されてないらしいよ。」

「ずいぶんくわしいね。」

「この病気のことを書いた『ベスト』っていう有名な小説があつてさ。お姉ちゃんが読んで、いろいろ教えてくれたんだ。」

さっきのネズミが、歩道の縁石のそばにノソノソ出てきた。ネズミは道ばたで立ち止まり、こっちに顔を向けている。

「おとなしいじゃん。」

モモカはスマホをかまえながら、そろそろと近づいていく。

「病気で弱ってるのかもしれないよ。」

「さわたりしないよ。これから写真撮るだけだってば。」

モモカとネズミの間はもう2、3メートルくらいしかない。あたしはモモカの腕をつかんで引っぱった。

「お願いだからやめて。もしモモカに何かあったら、あたし絶対後悔するから！」

もしこのネズミが病原菌を持っていたとして、この距離から写真を撮るだけでも危険があるのだろうか。

解説 ペスト

フランスの作家、カミュの小説『ペスト』は、パンデミックのおそろしさをリアルに伝える世界的ベストセラーだ。この小説でペストがはやる前ぶれとして書かれた、ネズミの死がいが町じゅうにあふれるシーンによって「ペスト＝ネズミが運ぶ」というイメージが強い。だが、ネズミについたノミもペスト菌の運び屋になれるのだ。

ノミがペストに感染したネズミの血を吸うと、ペスト菌がとりこまれる。ノミは体長1〜9ミリほどだが、30センチくらいジャンプできるので、はなれたところにも油断できない。小さいので気がつきにくいのも難点だ。ペストはネズミだけでなくリスやブレイリードッグ、犬やネコも宿主となる。ペストはいまだに根絶されていない。21世紀になってもアフリカ大陸、東南アジア、アメリカなどでパンデミックが起きている。よく効く抗生物質はあるが、治療が遅れば命にかかわることもある病気なのだ。